

構造生物学研究センター報告および ISAC 生命科学分科会報告

加藤龍一
高エネルギー加速器研究機構
物質構造科学研究所
構造生物学研究センター

2000年5月に発足した構造生物学研究グループは、2003年5月に構造生物学研究センターへ移行し、現在、教員7名、ポスドク等6名（うち外国人1名）、大学院生5名（うち外国人2名）、テクニシャン等8名、事務補助員等4名の計30名が、共同利用、新規技術開発、構造生物学研究を行っている。2008年8月に、ビームライン部門の責任者であった五十嵐研究機関講師が、公募審査の結果 PF 内の先端基盤安全グループの准教授に選ばれ、後任として松垣助教が業務を引き継ぐこととなった。なお、五十嵐氏は引き続き構造生物センターにも所属し、研究を行って頂く体制である。

現在進行中のプロジェクトである文部科学省「ターゲットタンパクプログラム」は、2007年度に開始した5ヶ年を予定とする研究プロジェクトである。我々の研究センターは同プロジェクトに2課題が採択された。解析技術開発部門では SPring-8 や大学と協力して高難度サンプルの構造解析を行うための技術開発を進めている。PF では、微小結晶と低エネルギー SAD 実験に対応できるミニビームビームライン（BL-1A）の建設を進めており、1年後に完成の予定である。基本的生命の解析部門では、東大および京大の研究者とチームを組んで、細胞内輸送の制御に関わるタンパク質群の構造機能解析を進めている。また、2006年度よりアステラス製薬の資金で建設を進めてきた「創薬ビームライン」(AR-NE3A) が先程完成し、2009年度より利用が開始される。そのビームタイムの一部は共同利用に供される。

PF International Scientific Advisory Committee (ISAC)の生命科学分科会（構造生物サブグループと放射線生物サブグループが対象）が3月4, 5日に開催されたので、その結果についても簡単に報告する。